

本町のみならず全国的な人口減少や、新型コロナウイルス感染症など、地方自治体を取

調査の経過

令和元年9月に設置された総合計画等調査特別委員会(山川秀正委員長)は15回開催され、第5期総合計画の検証等を踏まえ、新たな総合計画の策定に向けた今後のまちづくりの方向性等について審議した。3月定例会で委員長報告を行ったので、その内容を要約して掲載する。

総合計画等 調査特別委員会 報告

り巻く環境は大きく変化している。今後10年間のまちづくりの方向性を示す「第6期総合計画」は、SDGsの理念を踏まえたうえで、全ての町民の意思に基づいた計画づくりが必要である。委員から、第5期総合計画等評価結果については「これからは交流人口が一番経済の活性化につながる」。町の将来像に向かって実現するための施策については「定住の促進を図るうえで、雇用が非常に重要になってくる」などの意見提言があった。

調査の結果

本特別委員会では、第5期総合計画の検証を踏まえ、向こう10年間のまちづくりについて、総体的あるいは分野別の視点から議論を重ねてきた。基本構想を実現するための基本計画は、社会経済情勢や財政状況の変化に対

応するため、中間年で見直しされるため、着実な計画の推進に期待する。基本構想案におけるまちの将来像と、それを具現化するための5つの基本目標については、分野ごとに意見や提言を行い、現状や課題、基本的な施策等を含めて議論した結果、総体的に理解した。

むすび

これからのまちづくりは、音更町まちづくり基本条例の精神に則り、歴史や伝統・文化などの地域の特性を十分に生かし、町民一人ひとりが自ら考え、行動することが求められる。町民、地域、行政が一体となって「みんなが住みよい選ばれるまち おとふけ」が創造されることを望み、誰にとっても住み続けたいと感じてもらえる選ばれるまちが未来へつながることを切に願うものである。

議会に寄せられた意見

議会だより200号にて募集したご意見について、回答いたします。

Q. 会派の仕組みと、会派がどのような目的で生まれ、どのような活動があるのかがわかりません。議会に一層の関心をもつていくうえで、また請願を提出したい時が到来した場合に備え知っておきたいと思います。

A. 会派とは、町政に

関して同じような意見や考えを持った議員がつくるグループです。調査、議論、情報共有など議会をより合理的に進められることから導入しています。

町民から提出された請願・陳情に対し、会派として統一見解を図り議会でも審議するなど積極的に活動しています。

Q. 「核のごみ」について。寿都町と神恵内村を対象としての文献調査が始まりました。

A. 議員個人としての見解を議会だよりに掲載することはできませんが、音更町議会としては現在、「文献調査受入れは考えていない」という町長の考えを理解しています。

今後、請願や陳情が提出されるなど新たな局面を迎えた場合は、それを真摯に受けとめ、議会として判断します。

こねてまるめて(十勝産小麦でパン作り教室)



今後、請願や陳情が提出されるなど新たな局面を迎えた場合は、それを真摯に受けとめ、議会として判断します。